

環境経済学・幸福学
—「幸せ」から政策を考える—

担当者氏名：鶴見 哲也
(研究室番号：Q6002)

1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

「幸せ」の決定要因は何なのでしょう。いま、内閣府、OECD、国連など多くの機関が真剣にその命題に取り組んでいます。あなたは、日本は、世界は何を大切にすべきなのでしょう。お金でしょうか？それとも大切な人と過ごす時間でしょうか？最新の研究動向をもとに「幸せ」について考えます。

具体的研究対象は環境問題に限らずより幅広いものを対象とします。OECD の「より良い生活指標 (Better Life Index)」では、より良い生活に必要な不可欠な内容として 11 の柱を示しています。具体的には、「所得、仕事、ワークライフバランス、住宅、人と人とのつながり (地域コミュニティ)、教育、環境、ガバナンス、健康、生活満足度、治安」といった幅広い内容です。卒論はこれらの対象から (あるいはまったく別の興味のあるものも可能) 各自の興味のあるものをテーマとしてもらいます。環境問題以外の内容も歓迎します。様々な問題に対して「説得的に」自分の意見を提示することを目指します。

「より良い生活」を目指すためには環境問題、環境問題、とだけ叫んでいけばよいわけではありません。仮に環境問題について研究する場合には、環境問題が他の問題と比較してどの程度重要なのか、相対的な位置づけが重要となります。環境問題以外の問題も同様です。すなわち、「説得的に」政策を示すためには、その政策が対象とする課題が相対的な意味でどの程度重要かについて言及する必要があります。働き方、ワークライフバランスなども同様です。本プロジェクト研究では「幸せ」を抛り所に説得的に政策の重要性を訴える方法を考えていきます。

2. プロジェクト研究の進め方

3 年次はグループ研究を行います。具体的には大枠でのテーマを 2, 3 設定し (ゼミ生の希望を大いに反映します)、テーマ別にグループに分かれ、そのテーマについての論文をグループで作成していきます。3 年 Q1 および Q2 の総合演習 B (担当：鶴見) では各テーマの背景知識・先行研究を調べ、研究の方向性を固めていきます。研究に必要な基礎知識はゼミ中にできる限り伝えていきます。Q3 始めに分析を行い、その分析結果をもとにグループ内で分担して論文を執筆していきます。Q3 終わりの 11 月初頭に論文を仕上げ、Q4 の 12 月初めのインターゼミ「ISFJ (日本政策学生会議) (東京)」で論文内容を発表してもらいます。

以上一連のプロセスを通して論文の作り方を学びます。このプロセスを踏まえて 3 年の 1

月以降に自分自身の卒論テーマを具体化し、4年次は卒論研究の進捗状況を報告してもらいます。具体的には4年次のQ1およびQ2は卒論に必要な基礎知識の確認を行うとともに自分のテーマの背景知識と先行研究を報告してもらいます。4年のQ2の終わりまでに研究テーマを具体化し、4年のQ3から分析結果の報告や論文の執筆状況など研究の進捗状況を報告してもらいます。

3. プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

原則3年次Q2に開講される「総合演習B(担当:鶴見)」を履修してください(3年次Q2に短期留学を行うなどやむを得ない理由で履修が難しい場合には相談してください)。

いずれのコースを履修してもかまいません。前提知識は問いません。やる気とガッツがあれば大丈夫です。むしろ総合的な視野が必要なので環境以外のコースも歓迎します。「経済政策論」「環境経済学」はできる限り受講すること。

4. プロジェクト研究開始までの準備

ゼミ配属前に基礎知識を身につけるためのプレゼミを授業時間外に行います。

5. その他

他大学との交流を重視したゼミです。具体的には3年次のグループ研究の成果をインターゼミ「ISFJ(日本政策学生会議)」で発表します。総合政策学部にいるのですから学生の間に一回、政策を本気で考えてみませんか?日本を変える政策提言をする、日本の未来を学生が作る、といった気概を持った学生に集まってほしいです。先輩は顕著な実績を作ってくれています(ISFJ2021政策フォーラム決勝進出・優秀賞:100チーム出場中2位)。

グループワークやインターゼミなど他の人と協力する必要がある機会が続きます。他の人と協力できる人、ゼミ全体のことを考えられる人を希望します。また苦しいことがあってもみんなで楽しく乗り切っていきたいと考えられる人を希望します。

2015年度から海外のデータを用いた研究も推奨しています。世界各国(世界40か国以上)で行った独自のアンケートデータを有しており、それらを用いた分析が可能です。途上国・先進国も含めた世界全体のアンケートデータを用いた世界各国の状況(幸福度、貧困、安全な水、電気やガスなどのインフラの普及、所得格差、健康被害、治安)を把握する、といった「幸せ」をもとにした研究、国際比較研究といった研究が可能です。

2019年からは北欧(特にフィンランド)を対象とした研究に力を入れています。北欧の人はなぜ幸せなのでしょう。福祉が充実しているからでしょうか、自然が豊かだからでしょうか。国際的な視野で研究をしてみたい学生を特に期待します。もちろん日本国内を対象と

する研究も歓迎します。国際的なことを行うことが可能なので留学希望者も検討してみてください。短期留学を考えている人を歓迎します。

分野名に「環境経済学」が入っていますが、行うことができる内容は環境に限らず国際的・公共的なものも含んでいます。「幸せ」について興味があるゼミ生がほとんどであり、むしろ極めて学際的です。国際コース、公共コースの学生も歓迎します。経済学と聞くと数学が得意でないと、と敬遠してしまうかもしれませんが、難しい数学は要求しません。数学に苦手意識があってもゼミ生は乗り切っています。特に「幸せ、幸福学」に興味がある学生を歓迎します。

卒論の例：「北欧はなぜ幸せなのか」、「北欧のライフスタイルと幸せ」、「住みよさの国際比較」、「北欧の消費と幸福」、「女性の幸福」、「働きかたと幸福」、「ミニマリストと幸せ」、「景観と幸福」、「笑顔と幸せ」、「小さな幸せ、大きな幸せ」、「音楽と幸福」、「ポジティブ心理学」、「フィリピンと日本の幸福感比較」、「緑と幸福感」、「幸せな貧しい農民と不幸な億万長者」、「ワークライフバランスと幸福感」、「人と人とのつながりと幸福感」、「自然とのつながりと幸福」、「所得と幸福」、「越境大気汚染と幸福」、「環境配慮型商品の普及」、「次世代自動車の普及戦略」、「住みよいまちづくり」、「持続可能な消費」 など

6.選考方法

大学指定書式の志望理由書および面接によって決定します。